事務局からのお知らせ

1. この夏、近県で２つの全国大会が開催されます

一つ目は、茨城県水戸市にて８月28日㈭、29日㈮の２日間にわたり開催される「第９回 経営労働問題全国交流会」です。

本総会に引き続き、「労使見解」や「人を生かす経営」に焦点を当て、急速に変化する世界をどう受け止め、経営に反映させていくかを学びます。

２日目の基調講演では、栃木同友会でもおなじみの吉田圭一先生が、人間尊重の経営の本質とその変遷について語ります。

二つ目は、東京都新宿区・京王プラザホテルにて、９月４日㈭、５日㈮に開催される「第28回 女性経営者全国交流会」です。

テーマは「GRADATION！ 咲き誇れ、じぶん色、みんな色」。初日には11の分科会が開かれ、報告者はすべて現役の女性経営者です。いつもの報告とは一味違う、魅力的な分科会となっています。

また、２日目の記念講演では、200年以上続く老舗和菓子店・株式会社船橋屋の代表取締役社長であり、創業家出身ではない初の女性社長・神山恭子氏による奮戦記をお聞きいただけます。

参加登録の締切は以下の通りです

●経営労働問題全国交流会

開催日：８月28日・29日

一般締切：８月７日㈭

栃木同友会内締切：８月６日㈬

●女性経営者全国交流会

開催日：９月４日・５日

一般締切：８月18日㈪

栃木同友会内締切：８月17日㈰

ご興味のある方は、チラシにご記入のうえ、**栃木県中小企業家同友会事務局**まで締切日前にお申し込みください。

皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

2. 会費について

９月・10月は、**2025年10月～2026年３月分の会費**納入期間です。

同友会では、会費は半年分を**前納制**でお願いしております。お支払い方法は「自動引落」または「請求書発行」のいずれかとなります。

会員の皆様にはご対応のほど、よろしくお願いいたします。

［文責：事務局］

８月・９月行事予定

８月１日：８月県例会（鹿沼日光支部設営）★
８月２日：経営指針をつくる会第５講☆
８月６日：2025組織強化・会員増強全国交流会
（オンライン開催）☆
８月12日：理事会※
８月13日：県南支部幹事会※
８月19日：県央支部幹事会※
８月20日：県南支部例会★
８月23日：経営指針をつくる会第６講☆
８月28日～29日：第９回経営労働問題全国交流会
（茨城）☆
申し込み事務局に 8/7 まで
８月29日：中同協・第１回経営労働委員会（茨城）☆
９月４日～５日：第28回女性経営者全国交流会
（東京）☆
申し込み事務局に 8/7 まで
９月９日：理事会※
９月13日～14日：経営指針をつくる会第７・８講☆
９月16日：県央支部例会★
９月17日：県南支部例会★
９月25日：関東甲信越ブロック代表者会議（群馬）☆
９月27日：経営指針をつくる会第９講☆

※は該当者のみ、☆は申込された方のみ、★はどなたでも OK、◎は全国行事。
詳細はチラシまたは e-doyu、HP　https://www.tochigi.doyu.jp/ を御覧ください。

様

栃木県中小企業家同友会 会報

社長の学校 vol. 182 商い話

良い経営者を目指し、共に学び、共に育とう！

■ 発行日：2025年７月31日
■ 発行者：栃木県中小企業家同友会
〒321-0968 栃木県宇都宮市中今泉２-３-13
TEL 028-612-3826　FAX 028-612-3827
E-mail：t-doyu@ninus.ocn.ne.jp
URL：http://www.tochigi.doyu.jp/
■ 企画編集：広報委員会　■ 印刷：有限会社 赤札堂印刷所

News Topic 01　全国のNEWS　第57回中同協総会に参加して

中小企業家同友会
全国協議会　顧問
鋤柄　修氏

去る７月、神奈川県横浜市にて中同協総会が開催されました。

今年は「労使見解」発表から50年という節目の年であり、総会全体を通して「労使見解」を改めて見つめ直す２日間となりました。

１日目は、各テーマに分かれて17の分科会が行われました。

私は第４分科会「同友会と企業経営は不離一体 ―同友会の学びと実践」に参加しました。

報告者は、1946年創業の化粧品卸・株式会社NODAの古川敦義社長（新潟同友会理事）です。

前社長の急逝により30歳で事業を引き継ぎ、長年かけて会社を変革してきた経緯を報告いただきました。

「ガツガツやるタイプではない」と語る社長ですが、同友会で毎年経営計画（経営指針）を作成し、それを軸に長年にわたって強い会社を築き上げてきました。

一時は順調に見えたものの、2004年の7.13水害を皮切りに、地震・水害など８年間で７回もの大きな災害に見舞われます。

しかし、長年積み重ねてきた自己資本比率50～70％という堅実な財務基盤をもとに、健全な会社経営を実現してきました。

古川社長は、同友会活動と自社経営を一体のものと捉え、同友会での学びを自社に持ち帰り実践することで、経営の安定化を図ってきたと語ります。

まさに「お勉強」ではなく、実践的な経営の学びの場としての同友会の意義を感じる内容でした。

「自社の行く末を決めるのは社長の責任である」と、改めて認識することのできた発表でした。

２日目は、前中同協会長・愛知同友会の鋤柄修氏による全体会「『労使見解』発表50年　経営者の責任―学んで実践し続けてこそ」が行われました。

中同協幹事長を５年、中同協会長を10年務めた鋤柄氏からは、「真の経営者とは何か」「本物の経営者はどうあるべきか」「同友会運動の最終目標とは何か」などについて、力強い問題提起がありました。

鋤柄氏には、以前、栃木同友会でもご講演いただいたことがあり、そのときのことを懐かしく思い出させるような内容でもありました。

また、定時総会の議案も無事に承認され、2025年度の中同協の活動がスタートしました。

余談ですが、総会翌日の７月５日は、「日本に大災害が起きる」というデマが流れ、全国の地方ホテルが満室になるという出来事（いわゆる“大椿寺騒動”）が起きた日でした。

その影響か、横浜の宿泊費が思いのほか安く済みました。

今後またこのような話が出た際には、逆に好機と捉えて、ぜひ学びたいテーマに合わせて全国行事にご参加ください。

［文責：株式会社共立　代表取締役　石綱知進］

News Topic 02　栃木のNEWS　県南支部６月例会

『転ばぬ先の杖』

令和７年６月18日に小山交流センター「ゆめまち」にて県南支部６月例会が開催された。

冒頭、山崎支部長のあいさつで「この場では、参加者がダメ経営者の仮面を付け、他の参加者から冷や水を浴びせられる場でありたい」と説明があった。

今回の例会テーマは「失敗から学び、リスクに備えましょう」。

ファシリテーターは、㈱行廣国際アカデミー代表取

締役の行廣氏が務めた。

行廣氏から「今回の例会は自社・自身の失敗を素直に話し、失敗の要因と原因を全員で分析し、今後の事業への成功率を高める事が目的です。」と発表された。

参加者から以下のような失敗談がでた。

「将来の不安から、安易に新規事業を始めた。」

「本業と関係ない分野への過剰投資をした。」

「仕事が少ない焦りから、価格が合わない仕事を受注した。」

「簡単・短期・大金を謳っている仕事に手を出した。」

「他社が出来たから自社も出来ると思い込み、受注したが出来なかった。」

これらの失敗事例からの学びとして、次のような視点が導き出された。

「経営者が思っている不安が現場と合っているか話し合う。」

「新規事業を始める際は、その事業が自社の強みを生かせるものか。また、理念や目的に一致しているか確認する。」

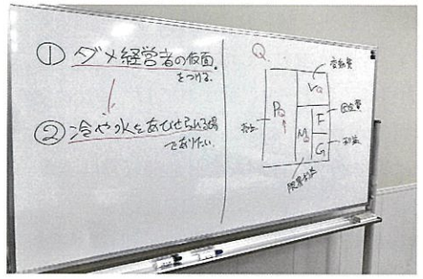
「本業から逸脱した新規事業は失敗のリスクが高い、事業を広げる時は本業を元に隣接する事業が好ましい。」

「他社が成功している事業が自社に適しているか、情報を集め偏りがなく正確な情報か確認する努力が必要。」

今回の例会では、参加者から失敗を共有する事で、多くの学びを得る事が出来た。失敗の背景には、「不安」「焦り」「思い込み」「情報の偏り」など様々な要因・原因があること、そしてそれらを具体的に知る事が出来た。

今回学んだ事を「転ばぬ先の杖」とし事業の成功に繋げて行きたい。

［文：八木匠　株式会社シンデン　専務取締役］



News Topic 03　栃木のNEWS　第11回経営指針をつくる会がスタート

情勢に関する座談会

6月7日、第11回経営指針をつくる会がスタートしました。受講生2名、修了生のサポーター7名で、9月までの4カ月にわたって経営について学びます。全員が年齢や立場に関係なく“知り合い・学び合い・援け合う”という謙虚な姿勢で参加しています。

第1講は、栃木県教育会館で行われました。

まずは現状把握・現状認識です。自社の仕入れ・製造・販売の流れと構造を表現して、リソースの確認を行いました。内部環境を考えることで、自社がコントロール可能な要因を知り、経営資源を見つめ直すことができます。

第2・3講は、「和の音交流館　鬼怒川宿」での宿泊合宿です。とことん自分と向き合う2日間。通称「付箋貼り」　これが簡単そうでキツイのです。参加者全員が頭を抱えてため息をつきます。はじめに、気になることを16個付箋に書き出します。なんとなく思うことや、私生活を含めて気になることで、特に書きたくないことを書き出します。丁寧に時間をかけて。書き出した付箋を模造紙に貼ります。次に、隣り合うものの共通原因を探り出し付箋に書きます。二次原因を探り、三次・四次原因を探り、付箋4枚の原因を2枚に集約し、最後に一言集約します。私の一言集約は、やっぱりな…と思いつつ、見たくない現実を目の当たりにして苦笑いするしかありませんでした。これで終わりではありません。現状把握の一言集約をそのままにしていたら次に起こることを16個書き出します。同じように一言集約し、出た言葉を体で味わう。このワークを「予悔」と言います。この一言集約は全て自分の考えていることから導き出されたものなのですが、自分でも受け止めるのに時間がかかる程、想像していない見たくない自分が出てくるのです。人が危機に直面した時、いくつかの行動パターンがあります。一つは危機に立ち向かい問題解決を行うこと。もう一つは、事実を見ないようにすること。後者を「防衛」と呼びます。第3者に見てもらいながら現状把握をするのは、この防衛を外すためです。人は無意識のうちに多くの防衛をしていることに驚かされます。

私は第9回・10回を受講生として参加し、今年からサポーターとして学んでいます。3年連続で参加しても同じ内容ではありません。外部環境の変化が大きい現在は、内部環境も刻一刻と変わっていきます。参加者みんなでやることで、一人では見えなかったことに気づくことがとても多いのです。

全9講から成る経営指針をつくる会は、深く自分と向き合い、自社の現状を把握して計画を立て、指針書をつくり「強い経営者をつくる」という大きな目的を持って開催されています。これからまだまだ魅力的なワークが盛りだくさんです。一緒に学んだ同期やサポーターはかけがえのない仲間となります。経営者として成長するために同友会で学び続け、経営指針の実践に取組むことで、厳しい経営環境に負けない強い会社にしていきたいです。

［文責：中村あさみ　株式会社ボーダレス　代表取締役］

News Topic 04　栃木のNEWS　鹿沼日光支部7月例会

2025年7月11日㈮に鹿沼商工会議所で鹿沼日光支部例会が開催されました。

今回は、「知らないと損する」をテーマに株式会社ACE代表の橋本竜氏が講演されました。

橋本氏は栃木県大田原市出身で、国際医療福祉大学を卒業後、薬剤師として同大学病院に勤務し、最年少で薬剤院長に就任。薬剤部部長を務める目標を30代前半で達成し、そのノウハウを社会貢献に活かすべく2024年3月に株式会社ACEを起業されました。

今回は、株式会社ACEの3つの事業内容のうち「企業がSNS運用を自社でできるようになることを目標にした教育」SNS運用支援サービス分野から、現代におけるSNSを活用した人材採用と中小企業のための実践的SNS運用方法についてお話を頂きました。

今回例会への参加は少数でしたが、講義中での疑問点にもその場でわかりやすくご回答をいただき、ディスカッションしながらの進行となりました。

以下、講義の中から学んだことのほんの一部を抜粋してご紹介します。

● SNSは経営者の味方となるツール

・YouTube、Instagram、X（旧 Twitter）、TikTokなどは無料、広告費ゼロで見込み客に情報を届けられる

・ファンをつくりやすく、ファンはリピーターにつながる

・会社の中を知ってもらう

→顔写真付きで職員の紹介をしたり、日常の配信をすることで「自社らしさを見える化」し、

自分たちの思いに共感してもらう、見つけてもらう

● SNS運用においてのペルソナ設定

ペルソナとは

・理想の顧客・または理想の採用したい人物像

・詳細な設定：性別、年齢、職業、立場、SNS利用状況など、実在する人物かのように

細かく深く掘り下げて設定

→ペルソナを具体的に設定することで「この人に刺さるためにはどんな投稿をしたらよいか」が明確になる

● SNSの重要性

・若年層の約8割近くはSNSで情報収集。HPを強化してもSNSを併用しないと、Z世代には届かない。HPが会社案内のようなフォーマルで堅い公式情報であるのに対し、SNSは会社の空気感を伝える「見える化」された情報

→誰に届けたいかでツールを使い分ける、見つけてもらうためにサムネイルを作る

今まで、HP・Instagram・Facebook・Xなどの各ツールで情報発信をしてきましたが、「誰に・何を」伝えたいのかが明確になっていなかったと感じました。当法人が運営する「障がい福祉サービス」についての認知度はまだまだ低いと感じます。法人の取り組みを知ってもらい、興味をもってもらう意味でも、職員の人となりや何気ない日常を「見える化」し発信することは有効であり、SNSというツールは相性が良いのではないかと感じました。

［文責：宇賀神 美菜子　NPO法人CCV］